

香川県指定有形・無形民俗文化財

天保4年(1833年)創始

香翠座デコ芝居公演

令和7年2月16日(日曜日)

※事前申し込みは不要ですが、
当日、鑑賞者多数の場合は入場制限
する場合があります。

栗林公園 商工奨励館北館

1回目公演

11時~11時40分 (10:30開場)

香翠座の歴史/あらすじ/上演

傾城阿波鳴門 (けいせいあわのなると)

-巡礼歌の段-

阿波藩のお家騒動に絡んで、盗まれた主君の刀を詮議するために、阿波の十郎兵衛、お弓の夫婦は、名を変え盗賊に身をやつし、大阪玉造に住んでいる。仲間から、今にも追っ手がこの家に来ているのですぐに逃げるようにとの書付を受けたところへ、巡礼姿の娘「お鶴」が阿波からやってくる。お弓はすぐに我が子とわかるが、ここで親子の名乗りをしたのでは、お鶴も巻き込んでしまうと考える。そこでこのお金を持って早く阿波に帰って父母の帰りを待つように、と言い聞かせ、ここに置いてくれと言う娘を、涙を吞んで別れるお弓。しかし、お鶴の歌う巡礼歌にたまらず後を追ってしまう。ここまでが巡礼歌の段ですが、この後行き違いから、十郎兵衛が我が子を殺してしまう悲劇へと続く悲しい演目です。



2回目公演

14時~14時40分 (13:30開場)

香翠座の歴史/あらすじ/上演

歌謡浄瑠璃 お初 (おはつ)



「曾根崎心中 天神森の段」を、浄瑠璃と歌謡曲「お初」に人形を合わせたものです。お初と徳兵衛の愛と絶望を感じていただけたならば幸いです。

<参考:曾根崎心中のあらすじ> 天満屋の遊女お初は、醤油屋の手代 徳兵衛と互いに将来を誓いあう間柄。しかし徳兵衛はお初と久々に会った日、トラブルに巻き込まれる。友人の九平次が貸した金を返してくれず、金を借りた覚えがないと言い張る始末。悔しがる徳兵衛は自分の身の潔白を証明するために、自ら命を絶つことを決心。お初も徳兵衛とともに命を絶つこと決意し、二人は天満屋を抜け出し、天神の森へと向かっていく。曾根崎の森に分け入って七つの鐘を聞き、二人は心中して果てます。

香翠座デコ芝居保存会

香翠座は天保4年に讃岐円座に生まれ、当初は松の根を削って自分で作った頭に袱紗を着せた「円座のふくさ人形」と呼ばれ、運営は頼母子講と言って必要な物は座員が持ち寄り、また作ることで運営されていたとのことです。

幕末期、高松松平家御連枝の松平頼該公が、円座に香翠座があることを知り、人形2体と田畑7畝を与えるなど庇護しました。その後、娯楽の多様化、戦争で一座は衰退しましたが、昭和63年の香川県民ホールこのけら落としの出演を機に香翠座デコ芝居保存会が結成されました。



2月15日(土)・16日(日)は『栗林公園 梅まつり』